

質問4 「対外的な組織率の向上」について

(該当箇所: p.13、2019年度事業報告、総括)

非会員が3万人以上いる現状の中で、「対外的な組織率の向上」をもう少し強調してはいいか？

回答

ご指摘の通り組織率向上は重要な課題と認識しています。以下に現状と今後の取り組みについてご説明いたします。

2019年度の確定会員数は60,024名、協会が把握している有資格者数は94,240名ですので、63.7%の組織率になります。組織率を向上させるためには、数字的には入会者を増やし退会者を減らすことに尽きます。

入会者を増やす取り組みとして、卒業生への入会の促進を各学校養成施設および各士会にお願いをしており、年度途中には各学校養成施設へ卒業生の入会状況(入会率)を報告し、卒業生には再度の入会を勧めていただくとともに、在学中の学生への働きかけの強化をお願いしています。また、退会者は毎年約2,000名ほどですが、退会理由は退職などによる任意退会の他に、会費未納による会員資格喪失が半数以上を占めています。これらに対して、会費未納者へは会費納入の督促を年3回行っています。その他、休会制度を設けたり、永年会員制度の検討を行うなどして組織率の維持・向上を図っているところです。

組織率の向上も含め、日本の作業療法をさらに発展させるために協会が行っている取り組みを2つご報告いたします。

1つ目は「協会員＝士会員」とする組織の構築です。協会員と士会員の入会状況には不一致が見られ、士会に所属しない協会員、協会に所属しない士会員が少なからずいる傾向にあります。この傾向が続き進行してしまいますと、協会と各士会、会員が一枚岩となって、今後の課題に向き合うことが難しくなることが危惧されます。このような現状を踏まえ、「協会員＝士会員」とする組織にすべく、本年度、特設委員会を設置し検討を進めているところです。これが実現しますと、会員にとっては、会費の一括納入や異動に関する手続き、都道府県を跨いだ研修の管理等が簡便になり、また都道府県士会にとっては、これらの管理業務を協会事務局が担うことにより士会事務局の負担軽減が図られ、その余力を会員の技能向上のための研修などに振り向けられる、ということが期待されます。

2つ目は、会員にとって大きなメリットとなる研修会など技能向上に関する機会の提供についてです。現在の研修は、認定作業療法士制度、専門作業療法士制度を基に構築されていますが、いずれも取得には大変な労力と努力が必要です。一方では、中堅以降の作業療法士への研修提供に関する制度や内容の見直しも喫緊の課題となっています。そこで、卒前、卒後、5年目、10年目、15年以降等多様性のある研修制度のあり方について検討を行っているところです。

これらの取り組みは、地味ではありますが、作業療法士の技能を向上させ、協会・士会の発展に寄与するものと思います。これらを通して、個人が進んで協会員・士会員となりたくするような環境を整えていきたいと考えています。いずれにしても、協会および各士会が社会的に存在感を保ち続けるためには、これ以上の組織率の低下は防がなくてはなりません。協会および士会も努力してまいります。会員各位にも未会員の方の勧誘にぜひご協力をお願い致します。